

「こけす」10年振り返る

弘前

弘前大学構内にある放送大学青森学習センターはこのほど、コロナ禍弘前の八甲田ホールで、公開講演会を開いた。黒石市で津軽系こけすとチェスを掛け合わせ

元黒石商教諭 今さんが講演

た「こけす」を製作し普及に努めている今金雄さん(65)が、こけす誕生からの10年を振り返り、今後の展望を語った。

こけすは2010年、黒石商業高校の生徒たちが課題研究の一環で考案。同校教諭として指導に当たった今さんは、定年退職後も「趣味」としてこけすの製作、普及に取り組んでいる。

講演で今さんは、こけすの知名度向上や地域活性化を目指して開発した経緯や、海外客らを中心に人気を集めている現状をさくばらんに紹介。「もし自分が動けなくなれば、こけすは終わってしまう。需要があっても、もつけるのは難しいが、受け継ぐ人がいるといい」と話した。

(太田佳希)

講演でこけす誕生からの10年を振り返った今さん



こけす「グッド・トイ」受賞

チェスの駒「こけす」でデザイン

黒石

チェスの駒を津軽系こけすのデザインにした「こけす」が、全国のおもちゃを対象にした「グッド・トイ2020」(認定NPO法人芸術と遊び創造協会主催)に選ばれた。今後1年間にわたって、同法人運営の「東京おもちゃ博物館」(新宿区四谷)の専用展示室、全国各地の巡回展、岩手県花巻市の「花巻おもちゃ美術館」などで紹介される。(中村規久夫)

今金雄さん



グッド・トイ2020に選ばれた「こけす」の駒

元黒石商教諭・今さん「今まで以上の喜び」

こけすは10年前、同校の課題授業で生徒らが考案。その後の生徒たちが、こけす大会開催や商品開発などに取り組んだ。当時の指導教員、今金雄さん(65)は黒石市で退職後にこけすの製作や普及活動などを引き継いできた。

新型コロナウイルスの影響で、今年は大変、出店予定だった県外のクラフト市は軒並み中止に。そんな中で今回、グッド・トイに応募すると、全国の遊びの専門家の投票の末、受賞作計39点の一つに入った。

こけすはこれまでに「第3回新東北みやげコンテスト」入賞(16年)、ふるさと祭り東京おもちゃグランプリ2017・グッスノベルティ部門アイデア賞に輝いており、今回が三つ目の受賞。今さんは「生徒たちは大人の観賞用になっていくことを、子どものおもちゃに戻したい」と思っ、こけすを考えたので、おもちゃとしての賞をもらえたことは今までの賞以上にうれしい」と喜ぶ。

こけすを含むグッド・トイ2020の全39点は、12月13日に弘前市のヒロロ4階市民文化交流館ホールで開かれる「グッド・トイ2020 in ひろろ」(青森グッド・トイ委員会主催)で実際に触れることができる。